

格闘技界の自由化時代・到来!!

価値観・多様化の95年を直撃!

進行 ● 谷川貞治

〈本誌編集長〉

『武道と他流試合』を読まずして、  
武道を語ったら墓穴を掘ることになる



在家集団であるアマチュア  
組織と出家集団であるプロ  
口組織をいかにつなげるか

谷川 この連載は、このところ  
4回ほど私からのインタビューで  
はなく、和洋女子大の三浦俊彦助  
教授とシューティングの中井祐樹  
選手をゲストに招いて対談をして  
いたのですが、まずそのこ  
感想からお願します。

堀辺 そうですね。三浦先生から  
中井選手、そして高専柔道ですか  
まさにこの流れがこの運動のテー  
マである価値観多様化時代を象徴  
していますね。そういう交流が可  
能になったこと自体、その時代性  
を表していることがハッキリわか  
る。それと、自由化時代というの  
は、価値観が多様化しているのと  
同時に、その価値観同士がゴール  
をめざし、誰が一番最初にテー  
プを切るか、競争しているような感  
じてすね。

谷川 そういう雰囲気は、今の格  
闘技界にはありますね。

堀辺 そういう時代だからこそ、  
今までの価値観をもつて見るこ  
がてきない時代に突入してしまっ  
たんです。4年前のオリンピック  
の時に金メダルをとった選手が、  
4年後に金メダルになれない  
ようなもので、価値観というもの  
が多様化しているのと同時に、非  
常に動いている時代ですね。たと  
えば、高専柔道が格闘に取り上げ  
られるようになりまして、これ  
は少し前だったら考えられない  
ことです。

谷川 いやあ、想像もしていませ  
んでした。

堀辺 ということは、高専柔道が



高専柔道の祖 堀辺 勇行

出てきたというのは、やっぱり読者の中にも意識変革が起こったからです。もし、一・二年前に高専柔道を取り上げていても、読者には何んて出てきたのか、さっぱり意味がわからなかったと思うんです。

谷川 前回の特集は、そこに骨法がからんでいたの、より興味をもつてもらえたと思います。でも、高専柔道に関しては、専門誌の「近代柔道」に資料を見せてもらおうとしても全くないんです。だから苦労しましたよ。

堀辺先生が高専柔道を説明されて、たまたま中井選手が高専柔道をやってた、と。で、パンフラスがビデオで密かに研究しているという。そういう現象が、読者にも空気のように伝わっているんじゃないかと思っんです。

堀辺 一般の人が、グレイシーをどうとらえているかという代表的な意見だっただけが、それと高専柔道でも、彼らのルールで乱取りすることを快く引き受けてくれたのは、少し前の時代だったから実現できなかったでしょうね。

谷川 取材に行っても、アマチュアのいい雰囲気は漂っていません。堀辺 骨法の場合も、あくまでも武道としての目標をもっているんで、決して興行会社にはしたくないんです。その意味で、学生組織とか、一般社会とのつながりをどうしたらいいかということ、非常に清々しい展望をもたせてもらった。

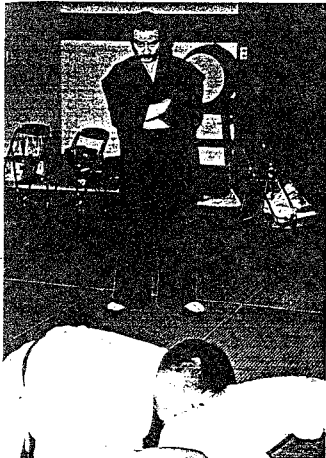
谷川 考えてみれば、格闘技の世界は、ほとんどアマチュアというものでいいですか。堀辺 そうです。今流行のオウム真理教の言い方では「在家信者」なんてすね(笑)。出家信者と、いうらよ、チコフェンションナレト

の世界というのではなくて、中学・高校・大学の部活動があって、それがまた一般の社会人につながついていく。こういう形が、一般社会とのつながりが一番いい形で出てくるんですね。今までの流れというのは、どちらかというと競技人口が少ないプロが、興行という形でスポットライトをあびる。そこから何かが広がっていく場合が多かった。それはそれでプロ格闘技という興行を主体にした良さがあつたんですけど、学生とかアマチュアの広がりが社会人まで一貫している普及の仕方は、もって世の中とつながりがもてるんじゃないかと。今回それが、大学という枠の中でやっている高専柔道と接触して非常に感じましたね。

谷川 金銭的な援助を流したり、OBが現役の学生と汗を流したり、へき姿で普及していた。これは骨法の道場のあり方にも、参考になりました。

堀辺 骨法の場合も、あくまでも武道としての目標をもっているんで、決して興行会社にはしたくないんです。その意味で、学生組織とか、一般社会とのつながりをどうしたらいいかということ、非常に清々しい展望をもたせてもらった。

谷川 考えてみれば、格闘技の世界は、ほとんどアマチュアというものでいいですか。堀辺 そうです。今流行のオウム真理教の言い方では「在家信者」なんてすね(笑)。出家信者と、いうらよ、チコフェンションナレト



○グレイシーとも違った寝技の技術を熱心に観察し、研究する堀辺節範

れども、この在家信者があつて出家信者が成り立つている。在家なしの出家というのは、成り立たないわけです。たとえば、プロレス団体は出家集団です。しかし、在家集団のアマチュアはない。これもし在家集団というアマチュア組織をもつていたら、随分違った展望が生まれてくると思つてます。

谷川 ああ、なるほど。特に格闘技をめざしているUWF系ならば、在家集団のアマチュア組織は必要かもしれませんね。  
堀辺 在家があつて、本当に組織としても、人材の育成についても力がついてくるんです。出家集団というのは、いわゆる特殊社会です。その特殊社会を支えるアマチュア組織があつてはじめて、競技人口も広がるわけですね。  
谷川 今までの格闘技界を考えると、在家集団だけのアマチュア組織か、出家集団だけのプロ組織に、つきりと分かれていて、両者のつなかりがあまり見られませんでしたね。プロという意味で考えると、出家集団だけのプロに依存す

ると、興行論に左右される危険性が出てきますね。  
堀辺 そうです。そうすると興行に依存する出家集団という目的がある強くなることを願つていながらも、客が入らなれないかという興行面を引っぱられてしまう。そこに理想を純粹に追えない矛盾が生まれてしまふんですね。だから、骨法では武道を貫くために出家と在家をどうやって作つていくか。そのことを名大柔道部に行った場合でも考えさせられましたよ。谷川 それに関連して言えば、私塾としてやつている骨法や、プロとしてやつているシューティングの中井選手が、アマチュアの柔道とどうつながりが生まれるのか楽しみにしてます。互いの交流関係もそうですが、僕なんかこれこそ柔道がより寝技を認めるようになって、今の武道としての柔道はおかしいんじゃないかと言ひ出したら、凄く嬉しいんですけどね。そういう声か、格闘技を読んでいる柔道家から出てきたら、痛快ですね。

「武道と他流試合に奮然とした武道論ほど、多くの人々に浸透したものはない。」  
堀辺 そうですね。だから今回発売される『武道と他流試合』(格闘技通信の本)をもつて一度読んでいただいたい。武道がどうあらねばならないのか、特に現代武道としての寝技の有り方を見つめて直してほしいですね。  
谷川 7月中旬に発売されますが、あらためて一冊を読み通してみると、武道のあり方が非常によく分かります。これは、みんなに読んでもらいたいですね。  
堀辺 ええ、武道としての価値観をもつた寝技、スポーツとしての価値観をもつた寝技の違いをハッキリさせた時に、今の柔道は武道ではないんじゃないかと気がついてもらえると思つてます。そして、気がついた人達が我々ももともと本来の武道をやろうという動きが起つてくれれば、寝技の問題にしても、判定の問題にしても、もう一度見直してみようということになるんじゃないかと。

谷川 本来、柔道の創始者である嘉納治五郎師範の原点までもつていけば、有効とか、効果まであつていいの、寝技の時間制限があつていいの、ことになるとしつね。  
堀辺 柔道に限らず、たとえば空手にしても、どついたら形態が武道としての寝手寝技なのが、半端に口にはされなからず、すでに百数十年の間に武道といふものがどういふものかということが科学的に分からなくなつてしまつたために、武道のつもりでも、現実的にやつていくことはスポーツだったという現状があつた。それをこの本で吟味してもらえればいいんじゃないかと。  
谷川 ヒントなり、言ひかすへて書かれてると思ひますよ。  
堀辺 ええ、だから柔道にしても空手にしても、あるいは日本の古武道にしても、いろんな武道が競技化しようとする時に、その武道の価値観を壊さないでいかに寝技化するか、その答が100%とは言わないまでも、手がかりになるものが、この本の中には詰まつています。  
谷川 本当にこれを読んでいないと、今後の格闘技界にはついていけないですね。  
堀辺 いや、今後の格闘技を語る上では、この本を読まずして本當にどういふ状況が出てくるかと思ひます。決して宣伝の意味だけであつて、本當に現実に起つてくる様々な問題をばつと認識するためには、どついてもこの本の中で述べられた切り口とどうものをもつていらないと混乱してしまつて、解決できないまま袋小路に入つていくと、断言しておきます。  
谷川、ここ10、20年くらいの格闘技界は、新しい潮流が凄く乱立してしまつたけど、中でも、実践、を論じたい文句にしたところは非常に多かったと思ひます。でも、この本が出たことによつて、そういう売りの新しい潮流は、旗揚げできなくなると思ひますね。  
堀辺 そうですね。それは結局、あまりにも武道の本質が出てしまつたので、小さな違いをもつて流

派を興すことが、いかに馬鹿げたことかということが、見透かされてしまつてしまふでしょう。  
谷川 たとえば、自分は柔道派の、と言つても、武道の論理が凄く欠けていたといふことになつて、あるてしよわ。ルールを提示した時とか、インタビュをした時それがすへて世間にもわかつてしまつと思ひます。ですから、関係者の人にもせひ読んでおいてほしいですね。  
堀辺 そういえば、この前、弟子がもつてきた柔道雑誌に面白いことが載つていました。それは、ある流派の先生に「インタビュをして特集をやつていただきますか」と、その中で「武道とスポーツの違いは、」と「インタビュアが聞いているわけですよ。そうしたら、なんと答が「スポーツは平等な条件を作つて闘うもので、武道というのは、不平等な条件でやるものですよ」と言つて、それを聞いて「インタビュアも感心して聞いてますよ。」(笑)  
谷川 え!! それは先生の論理じゃないですか?  
堀辺 別にこれは悪意があるとか、そつうなわけではなく、我々がやつてきた連載の中で言つてきたこととかあまりにも真実なので、あつたか自分最初からそう思つていたように錯覚を起してしまつたんでしよわ。(笑)  
谷川 それは、おかしいてすね(笑)  
堀辺 面白いでしょ。(笑)つまり、それほど多くの人々に「武道とスポーツの違い」が、この一年間の連載を通して浸透したといふことですね。

谷川 格闘でもいろいろな人にイン  
タヒューするんですが、結構みんな  
読んでいて、肌にも染み込ませて  
いるのをよく感じますね。

堀辺 これまで本場に多くの人  
が「武道とスポーツの違い」という  
ものを語ってききましたが、おそろ  
しく、これほど読者の中に届いたイ  
ンタヒューはなかったでしょうね。  
今までマスコミの人も、読者の人  
もわかっていなくて驚かかかっ  
ていて、何かはつきりしなかった  
その武道の意味を、やっとすつき  
り納得できたのではないしょうか。

谷川 僕もそうです。武道につい  
ては、あの先生の言っていることは  
何となくわかる。でも、この先生  
の言っていることもわかる。感じ  
だつたので、非常に興味があ  
つたんですよ。これほど明確に武  
道について答えていたのは、  
堀辺先生が初めてです。  
堀辺 また、別の著名な格闘技の  
理論家は、武道を最近、多局面格  
闘技だと言っているんですよ。こ  
れも私が言ってきたところの、全  
面格闘技の影響でしょうね(笑)。  
だから、本当にこの連載をやっ  
てきて良かったと思つし、私も嬉し  
いでいます。自分で言うのもおこ  
ましいんですけど、これで武道に  
対する視界が、やごとく霧が晴れる  
ように広がったと思います。

海の中という環境では、  
クロールでは泳げない。こ  
れにもスポーツと武道の違いが

ツとは何か? なんてあまり考え  
ませんからね。野球やバレーボー  
ルが平等の条件で闘っているなん  
て、あらためて驚きました。  
堀辺 そうですね。武道と比較す  
ることで、よりスポーツも見えて  
きたんですよ。そういえば、2・  
3日前に読んだ新聞で非常に面白  
い記事が出ていました。それは  
水泳のことなんですけど、これが  
また武道とスポーツの違いをよく  
物語っているんですよ。

谷川 え!? どういう記事なん  
ですか。  
堀辺 これはもう欧米でも盛ん  
になつている「着衣泳」という泳ぎ  
の「記事」なんです。  
谷川 服を着て泳ぐというわけ  
ですか。  
堀辺 ええ、我々が知っている水  
泳とは、海水パンツ一枚で、いろ  
んな泳ぎ方をします。たとえば、ク  
ロールというのには「スポーツ水泳  
としては一番速い泳ぎ方ですね。  
ところが問題になつているのは、  
服を着た人が船で沈んだ時に、海  
や川に投げ込まれます。この時  
クロールをやつては一番いけない  
んですよ。

谷川 ええ!? そうなんですか。  
堀辺 その新聞に書いてあったの  
は、クロールで泳ぐと服がだんだ  
ん体にピッタリとくっついてしま  
つて、密着して泳げなくなり、最  
後には沈んでしまつて。では、ど  
うしたらいいかという、服を着て  
いる時は、まずつつぶせになつて  
自分が浮かぶのを待つ。自分の体  
が浮かんたら、ひっくり返つて空  
を見る。そして、両手で自分の太  
股の下の水を漕ぎながら浮かんで  
いざよいというのが、正しいそう

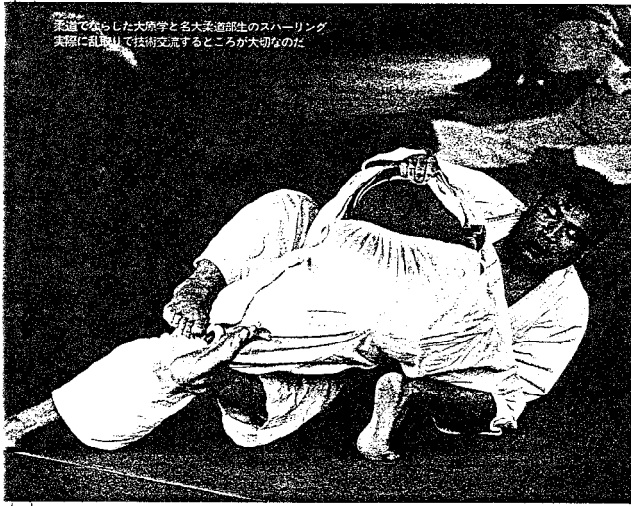
です。  
谷川 なるほど……。  
堀辺 しかし、学校体育で教える  
のはクロールですね。だから、ク  
ロールしかできない子供がたくさ  
んいる。そして裸になつてしま  
うのクロールで泳いで死んでしま  
う人が、非常に多いわけですよ。  
谷川 クロールは実戦的ではない  
んですね。  
堀辺 だから、着衣泳というのが  
注目されているんです。そういう  
記事が載つていた。水泳にも、武  
道とスポーツの違いがあつたん  
ですよ。

谷川 面白いですね。そういえば  
オリンピックの水泳競技は、明ら  
かに水と闘つていますね。

堀辺 そうそう。だから、自分の  
概念から言えば、まさに武道とス  
ポーツの違いです。日本には古  
流の泳法に鎧を着たまふたとか、  
刀をつけたまま泳ぐ方法があつた  
おそろしく鎧を着た人がクロールを  
やっていたら沈んでしまつてしま  
う。昔は水泳にも、実用的な武道  
の泳ぎ方があつたんですよ。もち  
ろん競技としては、今のクロール  
の方がずっと速く進化している。け  
れどもトホンと落ちてしまつたら  
クロールはやってはいけません。実  
用という意味では、スポーツは、  
全く違う進化を辿つてきたとい  
うことですね。

谷川 うーん、その話を聞くと  
て大切なかわかりますね。  
堀辺 たえばホクシングの洗練  
されたパンチとヒクソンのパンチ  
を比較する人がいるんですけど、  
そして、一部の人が見ると、ハタ  
クンと言つて、それはスポーツ  
の洗練されたパンチから見れば  
はハタクンに見えるかもしれない。  
しかし、実用的という意味では、  
今の水泳の例ではないんですけど、  
違つてますよ。

谷川 そのへんを勘違いして、よ  
くホクシングとか、レスリングと  
同じ土俵でグレイシー柔術の技術  
論を説く専門家がいますけど、そ  
れは危険ですね。ホクシングのパン  
チと比べると、レスリン  
グのタックルと比べると、とい  
う枕詞をつけて論じてはいけな  
いんですよ。  
堀辺 そのとおりです。アルタイ  
メット大会で評価できるのは、今  
言った枕詞を必要としないで、自  
由に闘える土俵であることですね。  
これは自分の言葉で、市場原  
理です。その市場原理を受けとめ  
て、私は日本の伝統的な武道の価  
値観をもつた競技を確立したい。  
アルタイムメット大会より、一歩進  
んだ武道の競技化を骨法では、や  
つていきたいと思つていまして、  
谷川 そのために、「武道と他流  
試合」の功績というのは大きい  
ですね。自分でも、本当にいい仕事  
をしたなと思つていますよ。  
堀辺 ええ、本当に骨法だけでなく  
く、武道を志す人すべてに読んで  
もらいたいですね。そして、日本  
人として、アルタイムメット大会よ  
りも遙かに価値のある武道の競技  
を作りますよ、とみなさんに言  
いたいのです。  
谷川 ありがとうございます。



茶道でならした大塚守と名大柔道部生のスノーリング  
実際に乱闘して技術交流するところが大切なた